

第56号・平成27(2015)年2月15日

同志社ファンを増やす会 発行

1. 「建学の精神とキリスト教」第10回 キリスト教の基礎(2)

キリスト教は「愛の宗教」と言われます。従って、キリスト教を理解するには、キリスト教の「愛」について学ぶことが欠かせないのです。

この授業で小原克博先生は、「愛とは何か」について2つのアプローチで話されます。

1. 新島襄が「愛」をどのように語ったのか
2. 聖書には「愛」をどのように書かれているのか

<はじめに>

1. 新島の説教に「愛とは何か」という説教があります。
これは添付しましたので一読され、その背景を確認してYouTubeをご覧下さい。「同志社創立10周年記念会での祝辞」でも触れています。
2. 聖書からの引用された大切な語句はYouTubeの中でパワーポイントで示されます。その語句を引用した聖書の箇所を添付しました。事前にプリントして、その前後の内容もお読み下さい。
なお、添付の聖書の文がご自分の聖書の内容と異なっているかも知れませんが、聖書には27種類もあるからです。

●新島が語った「愛」 説教「愛とは何か」より

1886年5月に仙台教会(一致教会)での説教の草稿の一部。

『現代語で読む新島襄』p.197-198(添付しています)

●「愛」を聖書で紹介する。

- ・パウロによって書かれた 自由と愛の関係
<ガラテヤの信徒への手紙 5章13. 14>
- ・キリスト教の言う「隣人愛」とは(添付しています)

●教育現場の中で語った「愛」

「同志社創立10周年記念会での祝辞」より

『現代語で読む新島襄』p.183-184

2. 同志社の施設紹介「リトリトセンター」

同志社大学のホームページも参考にしてください。

<http://www.doshisha.ac.jp/information/facility/retreat.html>

<序文より> 当施設は、キリスト教主義教育および国際主義教育を推進するために献げられた寄付金をもとに、同志社創立 125 周年を記念して建設されました。ー以下略ー

3. 早世の詩人・尹東柱と同志社 生き方問い続ける道、若者導く

2015.2.10 の朝日新聞夕刊 4 面に掲載された標記の記事を facebook 「同志社ファンを増やす会」にアップしました。

4. 同志社創立者 新島襄 生誕之地碑前祭

2 月 12 日、東京・神田一ツ橋 学士会館の碑の前で挙行されました。この写真も facebook 「同志社ファンを増やす会」にアップしました。

<https://www.facebook.com/pages/%E5%90%8C%E5%BF%97%E7%A4%BE%E3%83%95%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%92%E5%A2%97%E3%82%84%E3%81%99%E4%BC%9A/161604020713744>

<1886 年 5 月に仙台教会（一致教会）での説教の時代背景>

・1886 年の 2～3 月に、日本基督一致教会（長老派系）と日本組合教会の教会合併の話し合いが進められていた。

・長老主義系の一致教会の押川方義牧師は、1885 年宮城女学校を設立し、さらに英学校を設立する計画を立てていた。新島襄は説教だけでなく、仙台で分校を作る計画があったので、視察を兼ねていた。その仙台教会は同志社とはタイプが違った教会だったので、敵陣に乗り込んで、語ったメッセージである。ライバル関係にある教会で、なぜ、愛を語ったのかが分かるでしょう。

・「愛とは何か」（新島の説教）では、結論から入っている。

「キリスト教とは何か」と人から尋ねられたら、「愛をもってこれを貫く」と答えたい。

かつて日本には神の愛という教えがなかったから、愛といえばただ君臣の愛や夫婦の愛、それに親子の愛や兄弟、友人の愛に限られた。それゆえ、とかく

片寄った愛のみが行われ、聖書のこの箇所（エフェソの信徒への手紙 3・13以下）にあるようなキリストの愛は、キリスト教が日本に入るまでは耳にすることができなかった。

神は義なる者にも不義なる者にも公平に雨を降らせ、陽を照らされる。神が完全であるというのは、すなわちこの愛なのである。」

・愛の普遍主義を聖書は説いている。

神の愛は、人によって分け隔てをしない。「勸善懲悪」的な発想はいつの時代もあるが、イエスは全く違う愛、神の存在、敵味方の峻別をしない普遍的な包容力を一致教会の押川方義牧師に伝えようと敵陣に乗り込んでいった。

<読み上げ>

かつてキリストは、「^{さんじょう}山上の説教」（マタイによる福音書 五・一以下）で「右の頬を打たれたら左をも差し出せ、一里行けと言われたら二里行け、上着を取られたら下着をも取らせよ」と教えられた。キリストの愛は広く、深く、また高い。

. <読み上げ・おわり>

・「愛」という日本語は、元々はかなり違った意味で、エロスの、愛欲、男女の恋愛、というようなニュアンスであった。そのようなときに宣教師が「愛が大切だ」というと恥ずかしい感じがあった。しかし、キリスト教が普及して、「愛」の意味が徐々にキリスト教的なものに近づいてきていった。

● 「愛」を聖書で紹介する。

・パウロによって書かれたもの。

自由と愛の関係 <ガラテヤの信徒への手紙 5章13. 14>

「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉の罪を犯させる機会とせず、愛によって互に仕えなさい。

律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

ここのキーワードは「自由」。新島襄は自由を大切にし、守るために努力した。パウロは自由を欲望の満足のために使うのではなく、愛のために使いなさい、と言っている。

- ・キリスト教の言う「隣人愛」とは（添付資料参照）

彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。

「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」

（マルコによる福音書 12:28-31）

これは分かりやすい。まず、神を愛しなさい。次は、隣人を愛しなさい、

宗教の専門家は大切なことがあるので、横目に見ながらとおりが過ぎた。しかし、サマリア人は助けたのです。助けられたのはユダヤ人でしょう。ユダヤ人とサマリア人は、良い関係では無かった。

この例えは「善きサマリタン」と呼ばれ、西欧ではよく使われる。

あなたも同じようにしなさい。隣人を愛しなさい。

イエスは、高尚なお話ではなく日常的な例え話で語った。

- ・「最も小さい者こそ、最も偉い者」

（ルカによる福音書 9:46-48）

- ・最も小さい人（世の人々から注目されない人のこと）

（マタイによる福音書 25:31-46）

- ・隣人を愛しなさい。「隣人」とは、さげすまれて居る人

（マルコによる福音書 12:28-31）

●教育現場の中で語った「愛」

「同志社創立10周年記念会での祝辞」より

『現代語で読む新島襄』 p.183-184

—前略— 「諸君とともに過去を追想して記念としたいのは、昨年私が {渡米で} 不在中に同志社を退学させられた人々のことである。

ほんとうに彼らのためには涙を流さずにはいられない。彼らは真の道を聞き、真の学問をしていた人であったが、ついに退学させられることになった。

諸君よ、人ひとりは大切である。ひとは大切である。過去はすでに過ぎた

ことなのでどうしようもない。しかし、今後については私たちはまことに用心深くありたいものである。(先生は涙を流し、胸をつまらせながら述べられたので、満場ひとりとして涙ぐまない者はなかった)。後略

●<まとめ>概念的な整理

・自己理解と他者理解の相互関係

・自己理解 — 自己の中の「他者性」の発見し、受容すること。

隣人を自分のように愛しなさい。否定したい自分も認めること。

まず、自分を愛せない人は

・他者理解 — 他者の中の「他者性」の発見・受容

否定したいイヤな自分も含め丸ごと受け入れてくれるのが神である。
神の愛、隣人愛の二つにかかっている。

次回以降は、キリスト教の歴史を勉強します。